

コーパスを利用した複合動詞の類義分析

—インターネット検索エンジンの利用—

杉村 泰

キーワード コーパス、複合動詞、類義分析、インターネット、検索エンジン

1. はじめに

近年電子媒体を利用した日本語研究が盛んに行なわれるようになってきた。CD-ROM版『新潮文庫の100冊』や「CD-毎日新聞」など市販の電子出版物も増え、日本語研究に積極的に利用されるようになった。しかし、同じ電子化資料でもインターネットのWeb検索は、データの保存性が悪い、不自然な日本語が含まれるなどの理由により「信用できない」という批判が根強くある。たしかに、Web検索には様々な問題点もある。しかし、WWWページという巨大コーパスを検索エンジンで手軽に検索できるという利点もあり、注意して使えば日本語研究に大いに利用できると考えられる。

日本語研究では個人の経費で入手しやすいCD-ROM版『新潮文庫の100冊』（15,000円）の使われることがよくある。しかし、これも用例の多い表現の分析には役に立つが、用例の少ない表現の分析には適していない。何をもって用例の多少を言うのかは難しいところであるが、本稿で論じる複合動詞「-忘れる」、「-落とす」、「-漏らす」、「-損じる」、「-損ねる」の場合、一見して用例が多いとは言えないことが分かる。これらの表現をCD-ROM版『新潮文庫の100冊』のうち、日本人作家による67冊について検索した結果を表1に示す。¹⁾

表1 CD-ROM版『新潮文庫の100冊』からの出現数

(括弧内の数字は各形式の異なり語数と全出現数)

－忘れる (20語、54例)		－落とす (3語、10例)		－漏らす (3語、6例)		－損じる (2語、4例)		－損ねる (20語、23例)	
置く	24	見る	7	聞く	4	書く	2	出来る	3
入れる	3	言う	2	撃つ	1	する		する	2
付ける		書く	1	討つ		1	書く、買う、 奪う、食 べる、結ぶ、計 る、拗う、付 ける、巻き上 げる、跨ぐ、 吹く、演じ る、もらう、 行く、飛ぶ、 伏せる、死 ぬ、卒業する	1	
言う									
考える									
閉める	2								
聞く									
書く									
問う、申す、 見る、打つ、 剃る、抜く、 削ぐ、拭く、 引く、取る、 出す、証明す る	1								

表1に示されるように、CD-ROM版『新潮文庫の100冊』において、「－忘れる」は異なり語数で20語、全用例数で54例しか出現していない。しかも、そのうちの24例が「置き忘れる」の例で、他は多くても3例しか出現していない。また、他の「－落とす」などの形式はさらに用例が少なく、この数字だけで5つの表現の違いを議論するのは危険である。しかし、Web検索を利用すると大量の用例を集めることができ、前項動詞の違いを一目瞭然に見ることができる(3節の表2～6参照)。本稿では複合動詞の研究を例にして、Web検索が日本語研究に活用できることを主張する。²⁾

2. インターネットの利点と問題点

インターネットの検索エンジンを利用した日本語研究の利点と問題点については、すでに田野村(2000)、荻野(2004)、服部(2004)などに指摘されている。このうち主要な利点を挙げると次の3つに集約される。

利点

- ① インターネットのWWWページという巨大サイズのデータをコーパスとして利用できる。³⁾
- ② UNIXなどの面倒なコマンドを覚えなくても、YahooやGoogle、gooなどの検索エンジンで簡単に検索できる。
- ③ ヒット数を見ることにより、用例の量的分布が調査できる。

一方、インターネットの検索エンジンを使った日本語研究の問題点については、次のような点が指摘されている。

問題点

- ① ホームページの改変や削除により、前のデータが消えることがある。
- ② 新聞などに比べ、タイプミスや不自然な日本語が多い。
- ③ 検索ノイズ（いわゆるゴミ）の出現やミラーサイトの重複カウントがあるため、ヒット数が必ずしも正確な用例数を示すわけではない。
- ④ 各検索エンジンの形態素の区切り方が「ブラックボックス」になっているため、必ずしも検索したい表現が検索できるわけではない。
- ⑤ 「もし～ならば」、「きっと～だろう」のように離れた位置にある語の共起を調べるのには適していない。

これはWeb検索に限ったことではないが、コーパスを使った研究では、検索結果の中から意図した表現とは異なる表現を排除する作業が必要である。今回の例で言えば、「一忘れる」の検索結果の中に「戦没者への思い忘れた政治家達」のような表現も入ってくるが、これは「思い（を）忘れた」のように「名詞＋動詞」として解釈されるものであり、複合動詞の「一忘れる」とは区別して扱わなければならない。また、同じ「一落とす」でも「切り落とす」のように落下の意味を表すものは、「見落とす」のように失敗の意味を表すものとは用法が異なるため区別して扱わなければいけない。さらに、同じ「書き落とす」でも「データに書き落とす」は落下の例、「名前を書き落とす」は失敗の例であり、両者を分けて集計する必要がある。このような表現については研究者が言語直観を研ぎ澄まして分別する必要がある。⁴⁾

3. 「-忘れる」、「-落とす」、「-漏らす」、「-損じる」、「-損ねる」

日本語の複合動詞の研究は、松本（1998）や由本（2005）のように項構造や統語構造の面から詳細に行なったものはある。しかし、各形式の意味については斎藤（1985）、姫野（1999）、森田（1989）などの研究はあるものの、部分的な記述に留まっており、詳細な多義構造や類義関係の解明はこれからの課題である。⁵⁾

本節ではインターネットの検索エンジン⁶⁾を利用して、「行為の失敗」を表す複合動詞「-忘れる」、「-落とす」、「-漏らす」、「-損じる」、「-損ねる」と前項動詞との共起を見る。まず、各複合動詞と『日本語基本動詞辞典』にある852語を含む1070語の動詞との共起について調査し、それぞれ共起する動詞の数が多い順に並べた。⁷⁾

はじめに「-忘れる」について見る。表2は「-忘れる」と共起しやすい動詞上位10語を示したものである。これを見ると、「-忘れる」はいわゆる他動詞と共起しやすいことが分かる。これらの他動詞は日常よく使われるため自然にヒット数が多くなるとも考えられる。しかし、後に述べる複合動詞は必ずしもこれらの他動詞と共起しやすいわけではないことから考えると、これらの動詞と共起しやすいということは「-忘れる」の特徴であると考えられる。⁸⁾

表2 「-忘れる」の出現数（上位10語）

		-忘れる	-落とす	-漏らす	-損じる	-損ねる
1	書く	55,758	995	1,325	1,508	711
2	言う	25,721	204	122	4	229
3	入れる	16,856	0	2	3	324
4	買う	13,328	7	221	16	4,320
5	置く	13,285	0	0	0	11
6	撮る	12,990	4	26	19	3,259
7	見る	8,113	73,992	4	134	5,012
8	取る	6,833	(2,317)	47	24	5,211
9	付ける	6,782	13	0	3	54
10	飲む	5,600	0	1	4	363

次に「-落とす」について見る。表3は「-落とす」と共起しやすい動詞上位10語を示したものである。これを見ると、「-落とす」は圧倒的に「見落とす」の形で使われることが多く、ついで「読む」、「書く」、「聞く」、「言う」など言

語生活に関する動詞と共起しやすく、それ以外の動詞とはほとんど共起しないことが分かる。この点については森田(1989)にも指摘されているが、インターネットの検索エンジンを利用すると、このことが数字で明確に示される。このことから「一落とす」は視覚や言語生活に関する行為の失敗を表す表現であると考えられる。

表3 「一落とす」の出現数(上位10語)

		-忘れる	-落とす	-漏らす	-損じる	-損ねる
1	見る	8,113	73,992	4	134	5,012
2	読む	645	1,752	50	16	618
3	書く	55,758	995	1,325	1,508	711
4	聞く	4,232	789	3,396	73	640
5	言う	25,721	204	122	4	229
6	数える	226	29	6	1	21
7	語る	59	17	1	0	33
8	考える	43	16	3	0	7
9	付ける	6,782	13	0	3	54
10	おっしゃる	0	13	0	0	0

次に「一漏らす」について見る。表4は「一漏らす」と共起しやすい動詞上位10語を示したものである。これを見ると、「一漏らす」は「聞く」、「書く」、「買う」、「言う」のように日常よく使われる他動詞のほか、「撃つ」、「討つ」、「打つ」と共起しやすいことが分かる。「撃ち漏らす」や「討ち漏らす」は対象をねらい通りにとらえることができないことを表す表現である。これと並行的に考えると、「聞き漏らす」や「書き漏らす」も対象を期待通りに確保できないことを表す表現であることが分かる。このことから「一漏らす」は対象を取り逃がすような失敗を表す表現であると考えられる。

表4 「-漏らす」の出現数(上位10語)

		-忘れる	-落とす	-漏らす	-損じる	-損ねる
1	聞く	4,232	789	3,396	73	640
2	書く	55,758	995	1,325	1,508	711
3	撃つ	8	0	365	118	51
4	買う	13,328	7	221	16	4,320
5	討つ	0	0	183	54	22
6	言う	25,721	204	122	4	229
7	打つ	515	0	53	751	274
8	読む	645	1,752	50	16	618
9	取る	6,833	(2,317)	47	24	5,211
10	撮る	12,990	4	26	19	3,259

次に「-損じる」について見る。表5は「-損じる」と共起しやすい動詞上位10語を示したものである。これを見ると、「-損じる」はほとんど「書き損じる」、「打ち損じる」の形で使われることが分かる。いずれもその行為をしたことはしたけど、その出来具合が悪い(字を間違える、凡打になるなど)ことを表している。⁹⁾

表5 「-損じる」の出現数(上位10語)

		-忘れる	-落とす	-漏らす	-損じる	-損ねる
1	書く	55,758	995	1,325	1,508	711
2	打つ	515	0	53	751	274
3	見る	8,113	73,992	4	134	5,012
4	撃つ	8	0	365	118	51
5	焼く	49	0	0	80	64
6	聞く	4,232	789	3,396	73	640
7	射る	0	0	0	69	7
8	描く	1,247	12	11	63	61
9	討つ	0	0	183	54	22
10	受ける	231	0	5	45	375

次に「-損ねる」について見る。表6は「-損ねる」と共起しやすい動詞上位10語を示したものである。これを見ると、「-損ねる」は「食べる」、「取る」、「買う」、「撮る」、「食う」など対象の摂取を表す動詞と共起しやすいことが分

かる。「見る」も対象を視野に入れることを表すため、摂取を表す表現として考えられる。また、「行く」、「乗る」、「入る」は主体がある場所に入り込むことを表している。以上の動詞はいずれも対象や主体がある場所に取り込まれることを表す点で共通している。このことから「一損ねる」は対象や主体が期待通りに取り込まれずに終わることを表す表現であると考えられる。

表6 「一損ねる」の出現数（上位10語）

		一忘れる	一落とす	一漏らす	一損じる	一損ねる
1	食べる	1,477	0	3	18	5,306
2	取る	6,833	(2,317)	47	24	5,211
3	見る	8,113	73,992	4	134	5,012
4	買う	13,328	7	221	16	4,320
5	撮る	12,990	4	26	19	3,259
6	行く	1,065	0	3	13	2,001
7	乗る	78	5	2	12	1,790
8	入る	151	0	0	0	895
9	書く	55,758	995	1,325	1,508	711
10	食う	214	0	0	3	681

以上のことは森田（1989）が「一落とす」について述べている以外には、先行研究で明らかにされてこなかったことである。しかし、Web検索を使えば、その違いが目に見える形で簡単に現れるのである。

4. 「一直す」、「一返す」、「一戻す」

4.1 Web検索とCD-ROM版『新潮文庫の100冊』検索の比較

本節では「一直す」、「一返す」、「一戻す」の意味分析について論じる。表7～9に示すように、Web検索とCD-ROM版『新潮文庫の100冊』の検索結果を比べると、上位に出現する動詞は互いに似ていることが分かる。

表7 「一直す」のヒット数の比較（上位10語）

	Web検索		新潮文庫の100冊	
1	見る	768,582	取る	76
2	書く	161,085	思う	57
3	作る	131,524	見る	51
4	読む	120,984	座る	40
5	考える	110,691	立てる	39
6	立てる	101,933	やる	35
7	出る	89,237	考える	33
8	持つ	61,593	言う	31
9	思う	50,137	出る	22
10	入れる	36,329	持つ	20

表8 「一返す」のヒット数の比較（上位10語）

	Web検索		新潮文庫の100冊	
1	繰る	1,378,991	繰る	747
2	読む	284,952	引く	304
3	引く	124,425	思う	149
4	思う	116,808	聞く	108
5	見る	85,416	見る	64
6	折る	79,194	言う	51
7	取る	78,284	読む	46
8	聞く	67,278	はねる	42
9	言う	58,250	問う	33
10	送る	47,766	追う	29

表9 「-戻す」のヒット数の比較（上位10語）

	Web検索		新潮文庫の100冊	
1	取る	405,729	取る	181
2	買う	24,151	引く	30
3	呼ぶ	24,085	連れる	27
4	引く	21,055	押す	19
5	払う	16,109	呼ぶ	17
6	連れる	11,651	買う	12
7	押す	6,452	巻く	4
8	書く	5,883	払う	3
9	差す	4,677	突く	3
10	埋める	4,150	差す	2

従って、いずれのコーパスも分析に使えるが、ジャンル別でない日本語全体の傾向を見るには、コーパス規模が大きく様々な文体が混在しているWeb検索の方が便利であると考えられる。

4.2 「-直す」

まず、「-直す」について見る。森田（1989）は「-直す」と共起する動詞について、「いずれも行為がある結果を生み出し、その結果が客観的な事物・事態として後まで残るという意志的な他動詞である。単なる動作「歩く、泳ぐ、立つ、寝る……」などの自動詞には「-直す」はつかない（「出る」のみ「出直す」となるのが唯一の例外）」（p.835）と述べている。しかし、Web検索で「-直す」と1070語の動詞との共起を調べると、「出る」以外にも自動詞が上位に出現することが分かる。その結果を表10に示す。¹⁰⁾ たしかに直観的にも「泳ぎ直す」とは言いにくい、「惚れ直す」や「寝直す」は自然に使えると思われる。¹¹⁾ このような事実の存在に気付かせてくれるのも、Web検索の魅力である。

表10 「一直す」と自動詞の共起

(左の数字は1070語中の順位、右の数字はヒット数)

		一直す				一直す			
7	出る	89,237	57	生きる	1,282	191	走る		103
12	惚れる	21,852	97	登る	525	197	歩く		95
24	入る	6,706	110	立つ	351	233	遊ぶ		64
31	寝る	4,430	120	行く	285	393	泳ぐ		11
32	座る	4,297	136	生まれる	234	ク	感謝する		11

4.3 「一返す」

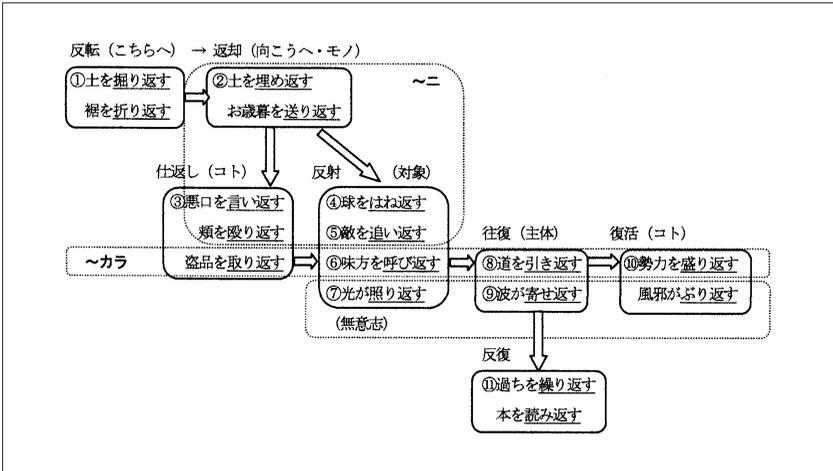
次に「一返す」と「一戻す」について見る。まず「一返す」と先の1070語の動詞との共起について調査すると、表11のような結果が出る。¹²⁾ 表中の「意味」は後の図に示す「意味」に対応する。

表11 「一返す」の出現数と意味（上位10語）

		一返す	意味
1	繰る	1,378,991	反復
2	読む	284,952	反復
3	引く	124,425	往復、仕返し
4	思う	116,808	反復
5	見る	85,416	反復、仕返し
6	折る	79,194	反転、往復
7	取る	78,284	仕返し
8	開く	67,278	仕返し
9	言う	58,250	仕返し
10	送る	47,766	返却、仕返し

次の図は杉村（2006b）で提案した「一返す」の多義構造である。これは①反転物が「相手側に返っていく」のか「相手側から返ってくる」のか、②反転物が「コト」なのか「対象」なのか「主体」なのかという二つの軸を基準に整理したものである。「一返す」の多義構造は斎藤（1985）のに記述があるが、これを大きく改善した。

図 「一返す」の多義構造



例えば、上の図の⑥の「呼び返す」は、斎藤（1985）に「離れていく事物をこちら側へとひきもどす」用法の例として挙げられている。しかし、筆者の内省では「呼び戻す」の方が普通であるように思えた。そこでWeb検索で調べたところ、「呼び返す」は544件、「呼び戻す」は24,085件ヒットした。これにより、「呼び返す」も間違いではないが、普通は「呼び戻す」と言うことの方が多いことが分かる。

4.4 「一返す」と「一戻す」

「一返す」には様々な多義の意味があるが、その一部が「一戻す」と類義関係を持っている。先の図において②の「埋め返す」、「送り返す」、③の「取り返す」、⑥の「呼び返す」は「一戻す」で言い換えることができる。そこで次に「一戻す」¹³⁾と「一返す」との比較を行った。表12は「一戻す」との共起が多い動詞上位10語を示したものである。

表12 「一戻す」の出現数（上位10語）

		一戻す	一返す
1	取る	405,729	78,284
2	買う	24,151	9
3	呼ぶ	24,085	544
4	引く	21,055	124,425
5	払う	16,109	16
6	連れる	11,651	56
7	押す	6,452	11,659
8	書く	5,883	175
9	差す	4,677	1,406
10	埋める	4,150	41

表12を見ると、「一戻す」は「取り戻す」、「買い戻す」、「呼び戻す」のように対象が主体の側へ来る場合にも、「払い戻す」、「押し戻す」、「差し戻す」のように対象が相手側へ行く場合にも使われることが分かる。いずれの場合にも対象が元の場所に復帰することを表しており、「一戻す」は「いかなる手段で対象を元の位置に復帰させるのか」を表す表現である。一方、「一返す」は対象の復帰ではなく相手にされたことに対する「仕返し」（報復、返礼）の意味で使われる。「取り返す」と「取り戻す」は似た意味を表すが、前者は取られたコトに対する「仕返し」に焦点があり、後者は自分から離れていったモノを元に戻すという「復帰」に焦点がある。そのため、(1)のように略奪者がいる場合には両方使えるが、(2)のように対象がひとりでのに主体から抜け出る場合には「取り戻す」を使うのが普通であると思われる。¹⁴⁾

- (1) a. 盗まれたものを取り返す。(相手への仕返し)
- b. 盗まれたものを取り戻す。(対象の原状復帰)
- (2) a. ?? {青春／信頼／輝き} を取り返す。
- b. {青春／信頼／輝き} を取り戻す。(対象の原状復帰)

Web検索で「取り返す」と「取り戻す」を調べると、「本」や「財布」のように略奪者が想定できる場合は「取り返す」とも「取り戻す」とも共起するが、「青春」、「信頼」、「輝き」のように略奪者を想定しにくい場合は圧倒的に「取り戻す」を使うことの方が多い。これを表13に示す。

表13 「取り返す」と「取り戻す」

	取り返す	取り戻す
本を	96	53
財布を	54	29
青春を	14	386
信頼を	38	7,608
輝きを	3	9,421

「-返す」と「-戻す」についてはなお議論することがあるが、それについては稿を改めて論じることとする。

5. まとめ

本稿ではインターネットのWeb検索が日本語研究にとって有用であることを主張した。インターネットのWeb検索には、不自然な日本語が混じる、検索ノイズが生じるなどの批判もある。しかし、WWWページという大規模コーパスを検索エンジンで手軽に検索できるという魅力もある。本稿では複合動詞の研究を例にして、インターネットのWeb検索を活用することにより、従来明らかにされてこなかった新しい言語事実を見つけることができることを指摘した。

注

- 1) 各形式とも漢字表記（「-忘れる」など）と平仮名表記（「-わすれる」など）について全活用形を検索した。出現数は「聞く」と「聴く」、「言う」と「云う」と「いう」など原文で表記の違うものも一つにまとめて示してある。名詞の「出来損ない」などの表現は含まれていない。
- 2) 「名大話し言葉コーパス」、「CD-毎日新聞」などとの比較、日本語母語話者と日本語学習者に対するアンケート調査との違いも興味深い研究課題である。これについては別稿で論じる予定である。
- 3) 松井（2004）は「Webにおける日本語のホームページは二億ページとも言われて」おり、「新聞千年分の情報がある」と指摘している。2005年頃から個人ユーザーが手軽にホームページを作る「ブログ」が急増しており、現在は二億ページをかなり超えていると考えられる。

- 4) これはコーパスを使った研究一般に言えることであるが、日ごろから読書をしたりラジオを聞いたりして、日本語の勘を研ぎ澄ませておくことが必要である。なお、gooのWeb検索では最大1000例までしか表示されないため、用例が多い場合は1000例中の割合で全体の数を推測することになる。
- 5) 杉村 (2006c) ではWeb検索を利用して、「～忘れる」、「～落とす」、「～漏らす」と前項動詞との共起を分析し、これらの形式の多義構造や類義関係について詳細に論じた。また、Web検索の結果が母語話者へのアンケート調査の結果と対応していることを明らかにした。
- 6) 本稿では検索エンジンとしてgoo (<http://www.goo.ne.jp/>) の「フレーズ検索」を使用する。
- 7) 検索日は2005年8月31日～2005年9月9日。各複合動詞は漢字表記のみ検索し、それぞれ「～する」、「～した」、「～しない」、「～しなかった」、「～します」、「～しました」、「～しません」、「～して」形のヒット数を調べた。以下の数字はその合計数を示す。(漢字表記に限ったのは、「～漏らす」以外は漢字表記の方が10倍以上多く出現する傾向にあり、検索の便を考えてのことである。また、連用形の「～し」は「見落とす(がある)」のように名詞が多数含まれるため検索から除外した。)
- 8) 自動詞の場合、「会うのを忘れる」のように「～するのを忘れる」の形では言えるが、「会い忘れる」のように「～忘れる」とは共起しにくい。
- 9) ただし、「見損じる」は次の例文のようにそもそも「見る」こと自体を行っていない場合に使われる。この場合、「見損なう」(ヒット数6, 375件)と言うのが普通であると思われるが、中には「見損じる」と言う人もいる。「見損なった」と言うのと単にうっかり見逃したというニュアンスであるが、「見損じる」と言うのと行為の不履行を悔やむ気持ちが強く感じられる。これは行為の結果がダメになる(破損する)という「～損じる」の意味から来るものと考えられる。
- (i) ちょっと寝ててオープニングを見損じたけど、Mステ見ました。
(<http://brambling.jugem.jp/>) 2006/10/19
- 10) 検索日は2006年2月19日～2006年3月31日。(以下注7と同様)
- 11) 「～直す」の意味の詳細については杉村 (2006a) で論じた。
- 12) 検索日は2006年4月1日～2006年4月4日。(以下注7と同様)
- 13) 検索日は2006年4月6日～2006年4月8日。(以下注7と同様)
- 14) 仁田 (1980) は主体から分離可能な「モノ、お金、地位」などは「取り返す」とも「取り戻す」とも言えるが、主体から分離不可能な「意識、健康、強さ」などは「取り戻す」としか言えないことを指摘している。しかし、

その理由については論じていない。

付記：本研究は『財団法人 堀情報科学振興財団』の第15回堀情報科学振興財団研究助成（研究題目：「コンピュータアシストによる日本語文法解析とビジュアル日本語教材の開発に関する研究」）による研究成果の一部である。

参考文献

- 荻野綱男（2004）「各種検索エンジンの実態と特徴」『日本語学』2月号 第23巻第2号，pp. 18-33，明治書院
- 小泉保・船城道雄・本田晶治・仁田義雄・塚本秀樹（1989）『日本語基本動詞用法辞典』，大修館書店
- 斎藤倫明（1985）「複合動詞後項の接辞化 — 「返す」の場合を対象として—」『國語學』第140集，pp. 132-120（左pp. 1-13），國語學會
- 杉村 泰（2006 a）「コーパスを利用した複合動詞「一直す」の意味分析」『言語文化論集』第28巻第1号，pp. 51-66，名古屋大学大学院国際言語文化研究科
- （2006 b）「本動詞「返す」と複合動詞「一返す」の意味の対応について」『ことばの科学』第19号，pp.157-165，名古屋大学言語文化研究会
- （2006 c）「複合動詞「一忘れる」、「一落とす」、「一漏らす」の用法」《日語学习与研究》2006年第4期（总第127期），pp. 1-6，对外经济贸易大学
- 田野村忠温（2000）「電子メディアで用例を探す — インターネットの場合 —」『日本語学』5月号 第19巻第6号，pp. 25-34，明治書院
- 仁田義雄（1980）『語彙論的統語論』，明治書院
- 服部 匡（2004）「WWW検索と日本語研究への応用」『日本語学』2月号 第23巻第2号，pp. 6-16，明治書院
- 姫野昌子（1999）『複合動詞の構造と意味用法』，ひつじ書房
- 松井くにお（2004）「検索ロボット技術を活かしたWWW検索技術」『日本語学』2月号 第23巻第2号，pp. 34-42，明治書院
- 松本 曜（1998）「日本語の語彙的複合動詞における動詞の組み合わせ」『言語研究』第144号，pp. 37-83，日本言語学会

森田良行 (1989) 『基礎日本語辞典』 角川書店

由本陽子 (2005) 『複合動詞・派生動詞の意味と統語』, ひつじ書房